

○1番（上田雄一君）〔登壇〕

皆さん、こんにちは。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、これより1番上田雄一の一般質問をさせていただきます。

今、野球界では一昨日行われましたWB C——ワールド・ベースボール・クラシックにおいて、日本代表が残念ながら2位ではありましたが、セカンドステージにこまを進めました。テレビを見ていて興奮された方も多数いらっしゃるのではないのでしょうか。これこそ愛国心といいますか、日本人として日本の勝利を願わない方はいらっしゃるのではないかと思います。

その日本代表、つまり原ジャパンですけれども、2戦目の韓国戦がポイントだったように思います。練習、紅白戦、強化試合、それぞれ好調を維持していた4番の稲葉選手をスタメンから外し、5番の村田選手を4番に上げ、さらには左キラーで名高いセ・リーグの首位打者、内川選手を起用するといった思い切った原采配、私個人的にはどうなることかなと心配して見ていたところですけども、結果的には宿敵、韓国に14対2という圧勝に終わりました。スタメンを変更したり、また新しいことに取り組んだり、結果的に動く采配といいますか、そういったことにはいろいろな見方があると思います。選手のモチベーションにもいい意味で作用したり悪いように作用したり、結果的に圧勝でしたので、原監督は脚光を浴びたわけですけども、そのとき、もし負けていれば原監督は大バッシングを受けていたのではないかなと。武雄市においてもまさに同様であり、樋渡采配、新しいことを行ったとき、成功すれば脚光を浴び、失敗をすればバッシングを浴びる。監督、また首長、組織の長にとっては本当に大変なものだなと、勝ってかぶとの緒を締めよではありませんけれども、抜かりなく市政運営を進めていってほしいものです。

それでは、今回、武雄市の今後の可能性について質問させていただきます。

先ほどの野球にも関連する話ではありますが、現在、武雄市の白岩球場においてはおかげさまをもちまして壁面緩衝材が設置され、利用者の安心・安全を確保できる球場にさま変わりし、利用者には大変好評を得ているわけです。市内にはもう1つの球場、サンスポーツランド北方球場があります。そちらのほうの計画がどのようになっているか。というのも、先日、子どもの野球の応援に、上峰町民グラウンドというところに行ってきましたんですけど、町民グラウンドですから、ただ広いグラウンドで、少年野球が4面はとれるかなというようなグラウンドなんですけれども、当然、野球またソフトボール向けにバックネットが設置されているわけでありまして、そのバックネット、大して大きいものでもないんですけど、もともとブロック塀積みのバックネットだったんですけど、そこにもやっぱり壁面緩衝材が設置されているわけです。子どもたちがプレーしている中での心配り、親として応援している身から見ても本当に安心して見ることができるような場所ではありました。

そんな中、我が武雄市においては、平成21年度に県民体育大会が控えております。せっか

く行っていただけるのであれば、ぜひその県民体育大会に間に合わせていただければと思います。その辺のスケジュールもあわせて御答弁お願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

球場の壁面緩衝材の設置につきましては、平成20年度から白岩球場の内野部分を設置いたしておるところであります。議員御案内のように21年度につきましては、白岩球場の外野部、そしてサンスポーツランド北方の内野部の緩衝材の設置を計画しております。

工事につきましては、県民体育大会前の平成21年9月までに完了するというので準備を進めさせていただきたいということで考えております。よろしく申し上げます。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

県民体育大会に間に合うように9月までにはということでありますね。本当にありがたいと思います。白岩球場の外野部も計画に入っているということでもあります。白岩球場、サンスポーツランド北方球場、両方、最終的には全面的に壁面緩衝材の設置を行っていただけるというようなところだと思います。本当、ありがたいことではあります。その中で、サンスポーツランド北方球場では毎年、少年野球の前北方町長杯、今は松本杯として少年野球の大会を毎年開催されております。この場合はライトポールとレフトポールのところがホームベースになってですね、1つの球場ではあるんですけど、2面をとって少年野球大会が行われております。例年は10月末か11月ぐらいに行われていたかなというところで記憶しているんですけど、ことしは日程がかなり早まるかもという話を伺っております。サンスポーツランド北方球場の外野部分もそういったところも視野に入れながら、ぜひ一日も早く整備いただければと思います。

続いて、現在、武雄市には高校野球やプロ野球など代表されるような硬式ボールを使用した野球ができる球場がないのは皆さん御承知のとおりだと思います。そんな中、武雄市において、今、ザスパ武雄ベースボールクラブといいまして、中学生以下を対象とした硬式野球クラブが発足しているのも以前この場で御紹介させていただいた次第であります。そのような中で硬式に対応した球場がない関係で、バッティング練習すらできる場所がないわけであり、バッティング練習をするために今わざわざ市外のほうへ出向いて練習をされております。本来、スポーツ振興の拠点づくりのためには私、新しい施設、集客が見込める施設、お金を生む施設というのが必要だと毎度毎度この場で訴えておりますけれども、今の経済状況を勘案しても非常に厳しい状況であるというのは個人的にも感じてはおります。しかし、観光都市である武雄においてはスポーツ振興というのは絶対に必要なことだと思っておりますので、

この状況下においても訴えていきたいとは思っております。

その上で、既存の施設、先ほど御紹介しましたけど環境整備において必要だと思うのは、今ある2つの球場の、せめてどちらかでも硬式野球に対応した球場にすべきじゃないかなという気持ちを持っております。WBCやプロ野球などキャンプ地などはですね、宮崎は本盛大盛況という報道がなされておりました。本当にうらやましい限りではあるんですけど、せめて硬式野球に対応した施設整備、環境の向上といいますか、考えてほしいという声が私のほうにも数多く寄せられるんですけど、そういった声は市長のほうにはいかがでしょうか、そういった声は届いておりますでしょうか、これについて御答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

さまざまな要望がある中で、硬式野球ができるような練習施設をつくってほしいというのもあります。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

届いておりましたら安心いたします。実は武雄でザスパ武雄さんが主催になるかと思うんですけど、硬式野球の大会を立ち上げようとしておられる動きがある中で、実際、試合会場は武雄市内にはありませんので、お隣の嬉野のみゆき球場とか塩田町の北部球場などを会場とすることを余儀なくされたと伺っております。ぜひその声は大事にして今後いつかいただきたいなと思っております。

続いて、1月に行われましたファミリーフットサル大会、前回の議会でもこの場で御紹介さしあげましたけれども、私も参加者の一人として参加させていただいて本当大盛況でした。親が子を応援し、子が親を応援するといった、私たちが子どものころ行われていた親子ソフトボール大会を思い出させるほどのものであり、忘れ去られようとしていた親子競技の大切さを肌で感じた次第であります。盛況過ぎるほど盛況だったこの大会ではあります。今後、この大会をどのような方向に持っていく予定なのか、実際その大会に参加した子どもたち、またその保護者の皆様から、「今度いつあるとや、早うしてほしいか」ということを聞かれたり言われたりしているわけで、今後の可能性、計画、そして市長もその当時の大会に出場しておられまして、私と対戦までさせていただいておりますので、その辺も出場した経緯も踏まえて感想をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

さきのフットサルの大会は本当に僕も感動いたしました。実はこの企画は私はリコールに伴う辞職でもうやめておりましたので、すべて市のサッカー協会の皆さんであるとかフットサルリーグの代表、リバイバルの皆さんであるとか、福岡のヒューマンアカデミーの皆さんとか、あと私どもの行政、教育委員会で普及委員会、実行委員会をつくってもらって進めていったと。これが非常によかったのは、まず親子の交流が図られたと、先ほど上田議員おっしゃったように、まず子どもたちのパートがあって、親が一生懸命応援するわけですね、今度、親がやるときには、子どもが一生懸命応援すると、非常にほほ笑ましいというか、これこそが、スポーツを通じた交流だと、上田議員が常々おっしゃっていることが私もあそこに入ってみて何かすごくわかった気がしました。何よりも思い出は上田議員と一戦を交えたことであります。非常にお上手でございます。そういう意味で私はこのフットサルの大会について、これは教育委員会がお答えすべき話かもしれませんが、私どもといたしましては21年度も、まずフットサルクリニックですよ、これを継続し普及活動に努めたいと思っております。なお、実績につきましては20年度のフットサル受講者は延べ830名の方に受けていただいております。これ18回開催をしております。そして、フットサルの普及委員会の組織強化を図っていきたいというふうに思っております。そして、私もこれ多くの市民の皆様から今度いつあるんだということを言われておりますけれども、あれだけ大規模のファミリーフットサルの交流会につきましては、現在、行事等の調整を教育委員会を中心に今行っております。現在、案として平成22年2月14日、第2日曜日の開催が有力だというふうに聞いております。そういう意味で本当に皆さんが参加できるように、そして、今回はまだ時間が、2月にするとするならばありますので十分な普及活動をきちんとしていきたいというふうに思っております。私もまた参加をしたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

本当に私も子どものころ、親子ソフトなんかです、近所のおじさん、おばさんたちと大分いろいろな接点を持たせていただいて、今それがあるおかげでいろんな方のおつき合もさせていただいております。後ろに私の小学校の3年、4年のときの担任の先生がいらっしゃる、本当にそういったところで迷惑をかけたようなところもあるのはあるんですけど、話を元に戻しまして、先ほどフットサルの日というか、次回計画2月14日ということをお話いただきました。私は子どものときの親子ソフトボール大会のときは、その当時私は少年野球をしていたんですけど、野球部もサッカー部も、バレー部もバスケット部も、剣道部もですね、みんなそこにおったような感覚なんですよ。だから、やっぱりせつかくするんであれば、とにかくだれもが来れる日ということでだれもが参加できる日というのを念頭にじっくり御検討いただきたいと思います。サッカー協会のほうは2月14日というのは特段影響

はないようだという話は私個人的には伺っておりますので、ぜひそういったところもいろいろな調整をお願いしたいと思います。

その調整の件で、今議会もこれまでの答弁の中でいろいろなことで出てきておりますけど、世界一の飛龍窯灯ろう祭りとか、あとモーターフェスタとかいろいろなイベント等があったかと思えます。モーターフェスタ等は日程が1日ずれていたかと思えますけど、その2月14日、世界一飛龍窯灯ろう祭りが行われたとき、実はもう1つイベントがあったわけですよ。市長、何か御存じですか、お願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

多分、男女共同参画のシンポジウムだったというふうに記憶をしております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

そうですね、武雄市男女共同参画推進啓発イベントやったですかね、正式名称は余り長かけん、私のはっきり覚えとったかどうかわかりませんが、私も個人的な諸般の事情によつてですね、私はそちらのほうに出席したわけですよ。そちらのほうのPRをされている皆さんの光景が、今も私の頭の中にちょっと残っているんですけど、灯ろう祭りもありますけど、こっちもお願いしますというようなPRやったとですよ。私もそちらのほうに行つてですね、勉強ついでにというのもあったんで男女共同参画のシンポジウムのほうに参加させていただいたんですけど、それはそれで生涯学習センター「あすばる」ですかね、の館長さんで、元杷木町長の中嶋さんという方の軽快なトークが聞けて男女共同参画についてわかりやすく講演いただいたわけですよ。どちらもすばらしいもので、灯ろう祭りの件は私ちょっと行けなかったんでいろんな人のブログ等で情報を得たんですけど、どっちもすばらしいかなとですよ、参加できればどちらも参加したいなと思われるんじゃないかなと思うわけですよ。こういうことの中で、よく見ると、どちらも行政が絡んでいる分にはなるんじゃないかなと。こういうことがあるんで私も以前のこの場で申し上げさせていただいておりましたが、武雄市のホームページ等をうまく活用して、日程はこの日はこれがある、この日はこれがあると、せっかく皆さん、いろんな尽力を折っている事業をさせていただいているんで毎年この日は何があるというような、例えば、ことしも行われますけど、4月の第1週目の土日は武雄温泉春祭りがありますというようなことですね、みんながそれを見れば一目瞭然でわかる、計画をする人もそれを見て計画を立てていこうというようなことができるんじゃないかなと。フットサルの日についてももちろん同様なんですけど、これについての市長の見解を御答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

そのとおりだと思いますね。やはり行政が関与している行事はなるべく重複を避けるということがポイントだというふうに思っております。ただ、困ったなと思っているのはフットサル日、これ2月14日なんですよね、来年の。そしたら、恐らく前田営業部長はことしの2匹目のドジョウをねらって、また飛龍窯のあれば2月14日にということを思い浮かべておられますので、そういった意味での調整というのはなかなか難しい部分あるかと思えますけれども、ただ、行政が関与しているものについては極力重ならないように工夫、手だて、これは前の議会でも私申し上げて実は答弁しながら反省をしておりますけれども、手だてを考えなきゃいけないなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

せっかくそういう事業をやっていく上では、できれば武雄の皆さんがどれでも参加できるように日程の調整はぜひお願いしておきたいと思えます。

続いて、保養村について1点確認なんですけれども、保養村の代表的な施設の中で、以前アネックスという施設があったと思えます。今もあるんですけど、市民の皆さんの声に体力づくりとか、いやし、そういったところのためにアネックスの再開を望む声というのが多々あるわけですよ。それができないのであればそういうたぐいの施設を武雄に誘致してほしいと、市長にこの声が届いているかどうかというのもまたあわせてお伺いしたいと思いますけど、こういった施設に行きたいがためによそまで行かれています方が私の知り合いの中にも結構いらっしゃるんですよ。アイルですかね、小城市のアイルにも行かれているというような話も多々あって、熱心な方は私にパンフレットまで持ってきていただきました。それぐらいそのアネックス、もしくはそれに類するような施設の再開というのを望まれている声が多数あるんですけど、そのアネックスも民間によって今後経営の再開といううわさを耳にしておるわけですけど、それについての現状、どうなっているか、今後の見通しとあわせて御答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤営業部理事

○伊藤営業部理事〔登壇〕

昨年4月に現在の所有者であります福岡県の企業が取得をしまして、当初計画ではプールを利用した温浴施設、フットサル施設ということで計画がなされて今年の10月に開業予定であったわけでございます。しかしながら、経済情勢の変化の中で何ら動きが見られませんが

したけれども、最近になりまして事業計画が見直されまして、ことしに入ってからでございますけれども、施設に隣接する市有地をフットサル施設として活用したい旨の申し入れがありましたので、市としては価格を提示して今返事待ちの状況であります。この際、今後の活用方法についても企業の意向について聞いたわけでございますけれども、一応、建物の内装とフットサル施設の整備を早い時期に取り組んで、その後、芝等の養生期間を終えた後、開業を目指しているということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

再開を望む声が私のところに届いているかという御質問だったんですけど、届いております。ただ、一言申し上げておきたいのは、今私もプール、あるいはフィットネス、フィットネスは余りやりませんが、プールには毎週通うところがあります。市に1個しかないので名前を上げたいと思いますけれども、武雄スイミングですよね。ですので、これには多くの市民の皆さん、そして嬉野であったりとか伊万里であったりとかからお越しいただいて子どもたちも多く来てもらっています。そういった意味で市民の皆さんたちが望んでいるものを聞いてみますと、少なくともプールとフィットネスというのはよく聞くんですね。ですので、温泉は武雄スイミングにはないと思うんですけど、これは県下のレベルの中でも非常に高いレベルだというふうにも思っておりますので、ぜひ今あるものを御活用しながら、そこでは厳しい、例えば、温浴の施設ですよね、アネックスに入っているのは。だから、そういったのは、株式会社リジョイスさんというところなんですけれども、ぜひつくってほしいなというふうに思っております。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

民間のお力をいただいて再開をするというようなところですね、それにあわせてフットサルの施設等も考えられているということですので、できれば今のアネックスもそのフットサル施設等を利用した際のクラブハウスのような役割とかもいろいろなことが考えられるかと思っておりますので、ぜひその辺の話は先に進め調整していただきたいなと思っております。

次に入ります。

子育て支援にかかわるものなんですけど、前々回の議会、20年の9月議会で子育て中の保護者の雇用について質問をさせていただきました。働きたくても子どもを見ないといけないというお母様方の悩みを解消するべく、子どもを見ながら、子育てしながら働ける環境づくりが必要ではないかという内容だったということです。そのときの答弁でぜひやっていきたいと、そしてあくまでも民間ですから、やっぱり稼いでほしいという市長から答弁をいただ

いたところだったと思います。

今議会の答弁の中にも起業というキーワードを考えたときに、官だけでは難しい、事業自体が成り立たないのではないかと、やはり官民が一体となって推し進めていくべきではないかという、そういうふうにも思われる答弁があったかと思えますけど、こういったことに対してのお考えをまず御答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず一般論といたしまして、こういう厳しい経済状況の中、起業を起業をといってもなかなかこれは無理なんですよね。ですので、行政ができることで下支えをきちんとする必要があるというふうに思っています。例えば、これは補助金もあるかもしれない、あるいは場所の提供があるかもしれない、さまざまな行政しかできないことでその下支えをする必要があるというふうに思っております。その上で私はこれから目指す先というのは施策を打つ上で一石二鳥、三鳥、四鳥を目指さなきゃいけないというふうに思っております。例えて言うと、ある方が起業をします。それが子育てにつながると、それと地域の雇用確保につながるというふうに1つ打つことによってなるべく多くの波及効果が生むようにしなければいけない、これはやはり行政が関与するほうがその波及効果が私は強くなるというふうに思っておりますので、そういう意味での行政の後押しというのは、私は今まさに求められているんじゃないかというふうに思っております。

我々としては行政というのは有権者の皆さん、納税者の皆様方から使われて何ぼだというふうに思っております。これは人材も場所もそうだと思っております。あくまでもパブリックサーバントでありますし、パブリックな場所ということでもありますので、今それを思い起こせば私はそういう支援の仕方というのが今後望まれる。これは最後にしますけれども、目に見える形での貢献をしたいというふうに思っているんですね。精神論とかではなくても目に見える形で、ああ行政はこんなに応援してくれているんだというのを目に見える形での応援というのをぜひ、私は今後それも重きを置いていきたいなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

20年の9月議会で質問したときは、子育て支援の一環ということで具体的に何というところまでは御提案できなかつたわけですがけれども、このたびある程度具体的になってきたところで、子育てにかかわられているお母さん方、母親の皆さんで子育て支援カフェを立ち上げる計画があるわけです。先ほど言いましたように、スタッフの方は自分の子どもを見ながら働くと、要は我が子と一緒に働くような感じですね。お客さんも子どもを連れてきてもゆっ

くりお茶ができる、そういうカフェを立ち上げられようとしております。これまで子育て中のために働くことを断念されていたお母さん方とか、子育て中だからなかなか定職につけないとか、そういったところの悩みを解消するための画期的なものだと思うわけです。内容的に子育て支援の一環として武雄市では全面的にバックアップするような事業としてはまず考えられないか、まずそこを1点、武雄市も一緒になってこの形態というか、事例をつくり上げる必要があるかどうか、そこら辺の考えを御答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ぜひ応援したいと思っています。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

そうですね、私も本当画期的だなど、何とかうまいこと言ってほしいなというような考えでおるわけですがけれども、そんな中、起業をされる上でやはりどうしても場所というのがキーワードになってくるかなと、場所を探されているような状況ではあるわけです。子育て支援という福祉の面がかなり色濃いこともあってですね、公共の施設というのを貸していただくようなことができないかなということでもあります。ただ、これ難しいのが公共の施設といってもどこでもいいというわけにはいかないかなと。冒頭にも言いましたように、やはりお母さんたちが収入をとってもらうことも目的の1つであると、子育てしながら働いて収入を得てもらわなければならないわけで、収入を得るためにはそれ相当の来店が見込めなくてはならないわけです。いろいろ空き庁舎等もありますけど、そこで出てきた案が、例えば、エポカルなんか考えられないかなということが出ております。エポカルの一部をカフェに提供するようなことが考えられないものか、これは図書館に來られている方も本を借りてゆっくりコーヒーでも飲みながら本を読んだりとか、どちらにとってもメリットがあるんじゃないかと思うわけです。

これは教育長にお聞きしたいと思っておりますけれども、例えば、このエポカル、こういった子育て支援のカフェなど設置できないものかどうか、御答弁願いたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

エポカルのカフェコーナーは現在自由に利用できるスペースとして館内で唯一飲食のできる場所として利用してもらっているわけです。仮に設置を考えた場合、広さとか、あるいは子どもさんが一緒におられるわけで、施設がどういう形でいっておれるかなとか、いろんな

クリアすべき課題はあると思いますけれども、御提案は考えてみたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

エポカルという名前が出てきたところで私もいろいろ調べてみたわけですけど、伊万里の図書館も福祉喫茶コーナーやったですかね、障がいを持たれているような方がされていたわけですけど、そこにも行っているいろいろ話を聞いてきたわけですよ。コーヒー1杯飲みながらというような感じだったんですけどね、入り口入ってのフロアの感じといい、なんといい、今のエポカルと遜色ないかと、どういった違いがあるかなということいろいろ見ていたんですけども、フロア的なレイアウト的にも何ら問題なく、何より働いている皆さんがとにかく笑顔やったですもんね。男2人で行ったとですけど、いろいろ話を聞いて本当気持ちいいねというような感じで帰ってきた記憶があったわけです。

先ほどいろいろ検討してみたいということで御答弁いただいたわけですけど、市長に今度はお聞きしたいかなと思うんですが、このエポカルで、例えば、先ほどの声、市民の皆さんからの声の中でもいいですけど、本を読みながら例えばゆっくりお茶したいとか、食事をしたいとか、そういう声が届いているかどうか、これがまず1点と、実現するなら武雄市としても子育て支援がまず大きなテーマの1つ、さらにはスペースの有効活用ということですね、そして、何よりお母さん方の就労支援にもつながる、図書館の利用者の皆さんにとってはゆっくりコーヒーを飲んだり、食事をしたりというようなスペースができると。先ほど一石何鳥でもあればあるにこしたことがないと、単純に考えても一石四鳥は考えられるんじゃないかなと私個人的に思うわけですよ。これについて、市長どうでしょう、エポカルという名を聞いて、まずその辺をトータルの御答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず1点目の御質問でありました、そういう声が私のところに届いているかということについては届いております。ただ、カフェという形もそうなんですけれども、今、本屋さん、例えば、TSUTAYAさんであるとか、あるいは佐賀市の民間の本屋さんですよ、というのは自由に座れて、私が知る限り、ちょっと誤解があるかもしれませんが飲食もできるような本屋さんを見たことがあります。そういった意味からして、やっぱり来て集まって、図書館の場合は主なことが本を読むということなんですけれども、そこに飲食があるというのは今の時代ではもう求められていることだというふうに思っております。

2点目の御質問でありました、上田議員は一石四鳥だというふうにおっしゃられました。

私も見事な分析だというふうに思っております。私が寡聞にして知らなかったのは、伊万里図書館の例は知りませんでした。それで、伊万里図書館の例は知りませんでしたので、それは私も調べて大いに参考にさせていただきたいというふうに思っております。必要なのはやはり市民の声が一番大きいと思うんですね。ですので、私は市民の声に関してはアンケートをぜひとってみたいというふうにも思っております。利用者の方にはさまざまな世代の方であるとかいろんな方々がいらっしゃいますので、本当にこれをやるときには、もちろん図書館の運営協議会というところに諮らなければいけないかもしれませんが、来訪者の方、市民の皆様方の意見も、もちろん議会の皆様方もそうですけれども、ぜひ聞いてみたいというふうに思っております。私はこれはあったほうが良いというふうになると思いますし、むしろ、そういうふうの下地をつくって設置すると、私も大賛成なんですけれども、設置するとすればそれは非常に市民の皆さんたちの子育て応援のカフェなるのではないかなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

本日の会議時間は議事の都合によりあらかじめこれを延長いたします。

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

岐阜県多治見市に子育て支援カフェの先駆けとも言える事例があります。ホームページ等でもいろいろな情報はとられはするんですけど、私たちも行って話を聞いたりしてきまして、本当に武雄でもこういう事例をつくる必要があると痛切に感じたところであります。市長初め執行部の皆さんには全面的なバックアップをお願いして、次の質問に入りたいと思います。続いて、学校教育についてであります。

これもさきの12月議会でしたか、質問させていただきましたけど、武雄市においては高校進学について、やはり非常に不利益を生じているということを述べさせていただきました。県内ほかの自治体に比べると高校の数自体が不足しており、子どもたちは市外への通学を余儀なくされているわけでありまして。先日も武雄青陵高校、武雄高校と卒業式の話が新聞等で報道されており、武雄青陵高校の最後の生徒が卒業し、閉校式典並びに思い出を語る会が今週土曜日に控えております。私も卒業生の一人として正直残念でなりません。ただ、今度の土曜日は同級生、先輩、後輩、そして恩師の先生方との楽しい時間を過ごしたいなと思っておるわけですけど、やはりこの高校再編について将来的なことを考えてといたしますか、1つお願いしたいことがあるわけです。

高校再編によって武雄にある2つの高校が統合され1つになるわけでありましてけれども、昨今、少子化の影響を考えると、高校再編というのはいずれまたさらなる計画の検討が継続して行われるんじゃないかなと思うわけです。ただ、そのときに備えてといたしますか、武雄市にはやはり高校が足りないという意見をぜひ県のほうに上げていただきたいと思います。今

後の高校再編の計画というのも人口比率や地域など、さまざまな要因の中で検討されるのではないかなと思うわけですが、そのときにせめて武雄にはやっぱりあと1校の高校が必要よというような要望を上げ続けていただきたいと思うわけです。

平成20年の6月1日現在で人口に対する公立高校の割合というのをちょっと調べてみたわけですが、伊万里市は人口約5万8,300人いるわけですが、その中に公立高校は伊万里商業、伊万里高校、伊万里農林と3校あるわけです。単純に3で割って約2万弱、1万9,430人ほどに対して1校あると。嬉野市は2万9,300人に対して嬉野高校、塩田工業と2校ありますので、1万4,650人、小城市も小城高校、牛津高校ですか、2校ありますので2万3,250人、鹿島は1万6,000、佐賀市が3万4,000ぐらい、唐津が2万2,000、鳥栖2万2,000、神埼1万6,800、多久においては人口約2万2,500人に対して多久高校が1校です。そのまま2万2,500人、武雄市だけどうしても5万1,800人に1校という、そのまま5万1,800人に対して1校というふうな格好になるわけですよ、これはあくまでも公立高校だけですよ。となつて、県内10市見渡しても1校に対する割合で圧倒的に武雄市は2位の佐賀市に対して、佐賀市の3万3,900人に対して大きく差があるわけですよ。2校あつても青陵が仮にあつたという計算でも2万5,900、佐賀が3万4,000近くになりますけど、それなりには佐賀はそれ以外に私立の高校等が多数存在しておりますので、その辺を踏まえてもやっぱりどうしても武雄市には高校が足りないということを考えるわけです。ぜひ今後の高校再編について協議がなされる時のためにも、教育長にも市長にもお願いしたいところですが、事あるごとに武雄市は高校が足りんという声を上げていただきたいと思うわけですが、これについていかがでしょうか、御答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

大変ありがたい思っております。1つは県立学校再編整備室というところで作業していらっしゃると思いますので、直接行きました話をして同じような思いをぶつけたことがございます。残念ながら市に1校、2校という計算の仕方をされてないと、これまで幾たびか本議会でも議論なされたと思います。有田工業、武雄高校、それから杵島商業、佐賀農業、白石、武雄・杵島地区という西部地区を3つに分けてそういう分け方の中で議論がなされているというのは御承知のとおりです。ただ、考えますと、この白石に昨年、一昨年見ますと、19名、16名、確かにっておりますけれども10名台であります。嬉野に52名、27名、塩田工業に27名、45名と、ですから、そういうことを考えますと、今の西部地区を3つに分けた分け方というのが本当に妥当性から考えても疑問を感じるわけでありまして。

それから、先般、再編計画の案が出されまして、当面、杵島商業と佐賀農業の合併は凍結するということですが、どちらかが2学級になったらまた再編計画を考えるというこ

とであります。そういう状況でありますので、こういう機会に子どもたちの通学等まで含めて考えて御意見いただいて、また私のほうも私の立場で考えていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

行政の長といたしましては、やはり今2校が1校になったというひずみについて、いろいろな声が私のところにも寄せられています。そういったことから教育長は教育の立場で西部地区の3つの分け方がおかしいと、私もこれも全く同一であります、考え方に同一であります。私としては教育の内容もさることながら、実際生活を皆さんたちは通学でされてあったりとか、御家族で送り迎えをしたりとか、私としては教育の外の部分でそのひずみについて、きちんと知事部局ないしは教育委員会に伝えていく必要があるだろうというふうに思っております。そういった意味で、私も上田議員と一緒にあります。本当に高校が1つでいいのかなというのは、数でおっしゃって、私もそうだと思うんですけども、そういうひずみが出ているということについては、やはりそれは正す必要があるだろうというふうに思っておりますので、教育長と一緒にあって、そして議会の皆さんたちと一緒にあって県にきちんと物を話していく必要があるだろうというふうに認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

心強い答弁をいただいて本当にありがたいと思っております。さっきのファミリーフットサル大会、また前段でも出てきておりましたけど、モーターフェスタなり春まつりなり、イベントにとにかく子どもがおらんと盛り上がりませんか。やっぱり子どもが武雄で育っていく環境をつくってやるのが我々の仕事だと常々思っておりますので、ぜひよろしく願いいたします。

それでは、また別の話題に入りたいと思います。

今、経済状況の中、叫ばれているものの1つに雇用の問題があるかと思うわけです。雇用というように直接的につながるかどうかというところもあるわけですが、私のほうにも寄せられた御意見、アイデア等を御紹介させていただきたいんですけども、11月をめどに武雄新駅が完成するわけですが、新幹線に伴い新たに南側に新幹線駅もできる計画になっているわけで、これは駅開発に伴って武雄は外貨を獲得する必要があるわけですが、武雄といえば武雄競輪もあるわけでありまして。その武雄競輪もサテライトは善戦しており、本場は売り上げに苦しんでいるということを伺っておりますけど、本場の売り上げ分の落ち込み分をサテライトがカバーしているような状況ではないかということなんですが、競輪事業において

は本場の集客、売り上げアップというのも考えていかなければなりませんし、好調なサテライトの分野も伸ばしていく必要はあるかと思うわけです。そこで、武雄温泉駅をサテライト化というか、サテライト化というと大げさですけども、小スペースでできるような売り場を設置するということができないかと。というのも全国各地、駅によく見かける光景の中に宝くじ売り場が駅に隣接されているのは皆さんよくごらんになっているかと思うわけです。結構、どこの売り場もだれかしら買っているような感じを見受けられるんですけど、そういった宝くじ売り場とかそういったのを併設されている駅というのはよく見かけるんです。例えば、武雄で言えば武雄競輪の窓口を隣接しているような駅がほかにあるかと、ちょっと私を知る限りではなかなかわからなかったわけですけど、武雄市の観光素材ということの1つとしても武雄競輪のPRが必要かなと思うわけで、売り場を設置できればPRにもつながるし、多少なりともそこに新しい雇用が生まれるんじゃないかなと思うわけです。券売機等を置くにしてもやはりだれかしらの人員を雇って配置してということで、せっかく今温泉なり行政視察なり武雄まで多数の方が見えられておいて、競輪があるのを知らずに帰ってしまう方もいるんじゃないかなと。今の武雄ではそういった感じですね、武雄競輪では興味本位でも車券を買っていただく、ついででもなんでもいいからということですね。的中すれば換金ついでに競輪場に行こうかというような感じになるんじゃないかという御意見、貴重なアイデアをいただいたわけですけど、これについて御答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

競輪の場外の車券売り場でございます、いわゆるサテライトの設置でございますけれども、これについてはまずは周辺住民の同意、それから警察の同意を受けまして、警備施設等を要件に経産省所の設置許可が必要になります。そういうことで駅のほうにつくったらどうかということでございます。これについては以前、市役所内にもつくったらどうかというような話もあっておりますが、問題はその売り上げですね。結局、費用対効果の問題がございませぬ。それで、つくった場合の初期の設置費用、例えば、車券の発売機が1台当たり約600万円ぐらいかかるという問題、それから発売をしても交納付金があったりとか、あるいは施設の賃貸料とか、専用の回線、それから警備、保守、そういう人件費がございまして、最低1日80万円ぐらいの売り上げがなからんとペイしないということでございますので、まずは売り上げが幾らなるかということで今のところはちょっと無理かなというふうに考えています。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

費用対効果というのは絶対について回るものでしょうし、周辺住民、そして、警察との協議、

調整がつくかどうかというのももちろん私も駅周辺の住民でありますので、その辺もひっくるめて、ただ貴重な、おもしろいアイデアだなというのがあるもんですから御提案さしあげたわけです。1日80万円どうなんでしょうかね。

それで、競輪事業もう1つ御提案をいただいているわけですけど、今度、本場集客についてであります。本場集客といいましても、これもどうなのかな、おもしろいなと思うんですよ、私自身はですね。今の武雄競輪場、本場は集客減、売り上げ減、その辺が関係して窓口がマックスで全部あいているということはないのかなと。閉め切られておったり、よく利用者の皆さん、お客さんが使われる窓口を重点的にあけてというような対応をされているんじゃないかなと。私も先日ちょっと見に行ったわけですけど、使っていないような、閉め切られているような感じのところも中にはあるわけですよ。これが最近の不況によるものなのかどうなのか、単に景気が上向いてきても今閉め切られているような窓口が全部開放されるということは考えにくいのかなという感じはしているわけですよ。これは競輪だけに限らず、競馬とか競艇、オートとかでも同じことだと思うわけですよ。

何を言いたいかというところでですね、佐賀県内に3つの公営ギャンブルというか、公営ギャンブルという言い方でいいのかなどうか、ちょっとすみません。要は武雄競輪があつて、佐賀競馬があつて、唐津競艇とあるわけです。この3つの公営企業、お互いに場内で今閉め切っている窓口をサテライト化するというようなことが考えられないのかなと。武雄競輪場に行けば競馬も買えるし、競艇も買える。逆に佐賀競馬に行ったりしても同じこと、武雄競輪が買えると、そういうところを県内のトップ同士で調整することによって新しい相乗効果が生まれるんじゃないかなと。これは閉め切っていた窓口も再開することによって今まで調整されていた、例えば、パートさんの人数をふやすことができるかもわかりませんし、今パートさんがずっと交代で勤務日数が減らされているとかというようなところもあつて、それも日数のアップにもつながったりするんじゃないかなと思うんですけど、これについての見解をお聞かせ願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、非常におもしろい案だなと思いました。御案内のとおり武雄競輪、唐津、佐賀競馬ですので、一回市長会で話をしてみようとは思いますが。ただですね、先ほどこの執行部席で話していたんですけども、これ、もしやるということになると、来た方々が武雄競輪を買わないとですね、かえって武雄競輪の売り上げが落ちる可能性があるそうですね。ですので、そこは3つを1つにすることがいいのか、それはちょっと戦略的に考える必要はあるというふうに思っております。ただ、お考えとしては非常にいい案だというふうに思っておりますし、実はこれ3年ぐらい前に唐津市長が雑談の中でこうなったらいいよねという話もされて

おったんですね。ですので、そういう意味からして、これは本当にいい案だなというふうに思っております。

いずれにいたしましても、一応答弁書を読みますけれども、施行者間のおのおのの利益確保ですよ、先ほど申し上げた、私どもを含めて利益確保を目的として商権、既存ファンの状況などを含めてそのメリット、デメリットを慎重に検証しながら研究したいと思っておりますけれども、次の市長会で、唐津市長さんと鳥栖市長さんと会うのは多分九州市長会だと思いますので、そのときには必ずお伝えして話を聞いてみようと思います。そのときの反応が楽しみであります。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

先ほどの競輪、競馬、オートレース相互の発売でございますが、担当のほうで調べたところ、全国に競輪場の車券をほかのオートレースとか競馬とか、そういうところに行って売っているのが3カ所ほどあるようです。近くでは、これは北九州市が若松ボートと小倉競輪を同じ北九州市が施行しているということで、そこは昨年12月6日にオープンしております。そういうことで先ほど市長が言いましたように、そこら辺の実態も検証しながら今後検討したいということでございます。

それから、先ほど競輪の窓口の話がありましたが、窓口については10年ぐらい前と比べると3分の1ぐらいに減っております。というのは当然、売り上げが当時は1日当たり1億5,000万円ぐらいの平均売り上げがあったのが今5,000万円ぐらいに落ち込んでおります。そういうことで窓口が減っているということで今どうしているかといいますと、関係者の努力によって鹿児島、宮崎のほうにサテライトを開設して何とか収支を保っていると、若干の収益が出ているという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

私もそれについていろいろ調べてはみたんですけど、オートレースとか競艇なんかサテライトでのコラボというのもあるみたいなんですけど、私、これは余り必要なかなと思うわけですよ。結局、本場とどこかでコラボをして、要は集客はそっちもお願いしますというごとして、結局、来んさぎぎ何なっとな、買って帰んさろうというような感覚なんですよね。サテライトにしたら、結局、ついで買いが両方ついで買いになってしまうだけやっけんが、できれば私は本場でやるべきだという考えを持っています。ぜひ九州市長会でそういった案の話をしていただければと思います。

続いて、新幹線について簡単に――簡単にじゃないですね、10年後という話でスタートし

たわけですけど、気づいてみればあと9年、先輩議員からもさまざまな質問が行われておりますけれども、ちょっと私なりの質問をさせていただきます。

この新幹線、生かすも殺すもまちづくり次第であるということで、これについては今新幹線活用プロジェクトでもさまざまな協議がなされているわけであります。ほかの先進地事例を調べさせていただいたりもしておりますけれども、先日も長野県の上田市のほうに視察に行ってまいりました。さすが上田市というだけあって、町じゅう至るところに私の名前があるような感覚になって、一緒に行かれた方からも大分そそのかされたような感じだったんですが、そこで伺った話の中でですね、鉄道運輸機構さんが駅舎設計において、駅舎の設計なんかになると大体必要最低限の設計しかされないよというような話を伺ったわけですが、ちょっと言うと、言い方悪いかもしれませんが、何の取り柄もないような張りぼての駅、機能だけを考えた駅しか設計されないと。そこで行った上田駅、上田駅も終点が長野で長野の通過駅と大変危惧されていた駅なんですけど、上田駅と言えば戦国武将、真田幸村の代名詞ということで六文銭ですね、六文銭が駅の駅舎にライトアップされるような感じの、非常にしゃれた特色を出されたような駅だったんですよ。今、全国各地といっても新幹線開通に伴うような駅なんかはもういろんなアイデアをずっとされているわけですよ。鹿児島線もそうですね。そういった中で武雄は駅舎、また駅周辺のまちづくりについて市長はどのように考えているか、その辺の考えをお聞かせ願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私といたしましては、まず新たな新幹線の駅が佐賀県西部、これは佐世保までかかるくらいの圏域を1つの中心になるようなまちづくり、駅づくりを進める必要があるだろうというふうに思っています。そのためにはまずその駅そのものに魅力があるような仕掛けをする必要があるだろうと思っております。それともう1点が車、バス、タクシーが、そんなに広くはとれないかもしれないんですけども、きちんと気持ちよく来れるようなハード面の整備が必要であるというふうに思っています。その上で私が期待をしていますのは新幹線プロジェクトであります。その中でいろんな意見を出していただきたいというふうに思うんですね。その上で最後に大事なのはこの新幹線の駅が私たち武雄市民の駅であると、みんなで作った駅なんだということであるということをしごく期待をしています。

それと、これはさきの牟田議員の質問に答えたことでもあるんですけども、ぜひ特産品をつくりたい。だから、博多の、これは牟田議員から教えてもらいましたけれども、辛子明太子は新幹線で広がっていったと。それと仙台の牛タンも東北新幹線で広がっていったというので、ああ、なるほどそうなんだと、だから、新幹線が人も運ぶし情報も運ぶということで、なるほどそうだと思いますので、ぜひその新幹線プロジェクトにおかれましては、そ

ういう特産品も一緒に議論をしてほしいなというふうに思っております。いずれにいたしましても、時間があるようでないというのは重々承知しておりますので、そういった意味で新幹線活用プロジェクトの皆さんたちの議論をさらに深めていただきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

もうまさにそのものですね、上田に行っているいろいろな話を聞いていく上で、やっぱりその一体感というのは欠かせませんよと口酸っぱくして言われました。その上田市においてもまちづくりには一体感が必要で、上田市においては自治会も率先して動いてくれてまちづくりに進んだというような話も聞いているわけですよ。武雄市も合併して3年たちますけれども、一体感と考えたときにまだまだ足らんとかなという、個人的な感覚があるわけですよ。武雄市のよさ、各町のよさ、またさらにその地域でのよさというのが十分理解している人というのはどのくらいいるかなというような疑問も持っているわけですけど、例えば、観光で考えた場合、観光の最先端にいらっしゃる旅館業の方であったりとか、そういう人たちもどうなのと、武雄市内をそれだけ把握してあるとかなという感覚にもなるわけですよ。

そこで考えた1つの案として、武雄のPR番組というのを制作してみてもどうかかなと思ったわけですよ。例えば、余り長い番組というか、デモテープというか、そういったふうになると、見る人もやっぱり飽きてしまったりとか、ゆっくり見れないというのものもある、例えば、5分とか10分とかの時間でとにかく武雄のよさ、そういうのを見てもらえば武雄のよさが全部わかると。文章とかペーパーよりもやっぱり動く映像なりのほうが見る人に入りやすいんじゃないかなと思うわけですよ。地元の人に地元を知ってもらうという役割ももちろんですし、観光客の皆さんが旅館に着いてまずそれを見てもらうというような感覚でもいいし、駅に着いてまずそれが目に入る映像というような感じでもいいし、実は私が以前行ったところで地域の紹介番組みたいところがホテルで流れよったところがあったわけですよ。何月にはこういうイベントがあっているよとか、そういうふうにPRがあっていたんですけど、こういう取り組みについて、これまでの答弁の中で具体的なあれで県のほうからの補助金とかも考えられると、そういうとにマッチするんじゃないかなと思うんですけど、それについていかがですか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私の横には古賀副市長がおりますけれども、さっき聞いてみたら十数年前にそういうPRのビデオをつくったということで、私もこれは初めて今聞きましたけれども、余り活用され

ているそぶりがないということでもあります。そして、この前、去年の10月23日なんですけれども、東京国際映画祭に行ったときに武雄のPRのビデオを流したんですね。これを見たのも私はこれが初めてだったんですよ。これはサガテレビさんが無償でつくられたものなんですけれども、映像の持つ力というのは非常に怖くて、本当にいいものはやっぱりPRしなくてもどんどん見ていただくと。失礼な言い方になるかもしれませんが、特に映像は、中途半端につくったものというのはかえって見ないほうがいい。だから、本当に精根込めてお金も込めて時間も込めてつくるものがやはり残っていく、だから、非常にこれこそがプロ中のプロの世界だというふうに映像は思うんですね。

それで、今私が思っているのは、私が以前いた高槻市が今どうなっているかということ、ユーチューブに今どんどん、これ私のブログにコメントも入っていたときにリンクもありましたけれども、一般の市民の方がユーチューブ用にPRのビデオをつくっているんですね。これは非常におもしろいんですね。ですので、ちょっと話が上になって恐縮なんですけれども、例えば、旅館で流す等の場合は精根込めてつくる必要があると、1年ぐらいかけてつくる必要があるだろうと。そして、すぐにでもPRする必要があるときというのは、やはり今ホームビデオとかすごいハイビジョンの画質でもありますけれども、ユーチューブとかグーグルビデオみたいなものでどんどんつくる必要があるだろうと、これはお金もそんなにかかりませんので、これはあわせて検討、研究をしてみたいというふうに思っております。もとよりその有用性については過去のことはいろいろありますけれども、私は映像によるPRというのは文書とか絵よりはるかにあるだろうなというふうに認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

その映像も十数年前にそういう番組をつくったという経緯はすみません、私も勉強不足で存じ上げておりませんで、今の時代、結構パソコンでもスライドだったり映像を取り入れたPRビデオだったりというのが結構簡単につくれるものですから、そういう中で私は市民の皆さんにつくってもらうようなプレゼン方式じゃないですけど、市民の人たちが自分たちの手でみんなで持ち寄ってつくるといっても考えられるのかなというのもちょっとあったものですから、今回取り上げさせていただいておりました。

それでは、続いて高架下の利用について、さきの先輩議員よりも質問が上がってございましたけれども、高架下の利用についてですが、公租公課が2,500平米あると、その中には観光交流センター、駐車場、消防詰所などという要望があるということですが、それ以外にもいろんな要望があるんじゃないかなというところで、それ以外も全体をひっくるめて皆さんからどういう要望が上がっているかというのを御答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

高架下利用についてのお問い合わせ、これ今現在23件あっております。ほとんどが駐車場として利用したいという問い合わせですが、店舗として利用したい、あるいは自分の倉庫として利用したいというふうな問い合わせもあっております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

そういう市民の皆さんからの要望に対しての貸し出す要綱というか、そういったのはほかの相場に準じた格好でそういうふうに貸し出されるのか、高架下だから別に何か特典というとおかしいですけど、何かそういう別のことが予想として考えられるのか、その辺についてはいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

高架下利用につきましては、これはJRとの直接契約という形になるわけですが、今よその地区での例をとってみますと、大体そこら辺の近辺の賃貸契約、そういうふうな例になっているということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

わかりました。これ最後になりますけど、松原通りの区画整理事業についてなんですが、これの今後をですね、着々と沿線工事等々いろいろ進められているかと思うわけですけど、その松原通りで事業を営んだりお住まいになっておられる方が今一番気になっているのは今後の予定ということだったわけですよ。平成21年度予算にも盛り込まれているように換地処分の構想というのはある程度住民の皆さんは聞いておられるということですが、具体的にじゃあスケジュール的にはどうなのと、これまでの答弁の中でも換地決定通知書ですかね、そういうのが今月届くと、それを受けた上で今後じゃあ何月ぐらいにどういうふうになる、何月からこれを行うというようなタイムスケジュールというか、そういったスケジュールをぜひ知りたいとおっしゃっている方がいらっしゃるわけで、ぜひ住民の皆さんはそういったところに気になられていますので、この場をかりて今後のタイムスケジュールなり具体的に明確にさせていただきたいなと思いますけれども、御答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

松原地区の仮換地は、議員先ほどおっしゃっていただいたように、3月上旬に仮換地指定書を送付をいたしました。

今後でありますけれども、まず3月中旬、もう目前に迫っておりますけれども、家屋移転等について権利者の皆様方への説明会を開催いたします。平成21年度の事業については、これは主に松原地区の移転補償になります。いろんな諸事情でおくれましたけれども、今事務方に急いでほしいということで私も指示を出しておりますので、この延長線でいくことになります。工事の中身につきましては、駅舎完成後、駅前付近の道路工事等、市道3路線の舗装改良であるとか、議員御質問がありました高架下の駐輪場整備等を予定しているところであります。そういったことできちんと進めていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

具体的にいろいろあるかと思えます。3月中旬には権利者の説明会が行われるということで、ぜひ住民の皆さんの不安等に明確にこたえてやっていただきたいなと思えます。そういったところをお願いしながら私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。